

令和 5 年度自己評価結果公表シート

社会福祉法人あけぼの会
あけぼの保育園
あけぼの第 2 保育園

1. 本園の保育方針及び保育目標

保育方針

- ・ 光り輝く太陽のような笑顔と、愛情あふれる温かさに包まれて、豊かな人間性をもった子どもに育てます。
- ・ 家庭と地域が一体となり、人と人とのふれあいを大切に、子どもたちの幸せと心豊かな育ちへとつなげます。
- ・ 保育に誇りと充実感を持ち、自己をみつめ高めながら、子どもたちのかけがえのない今に、愛をそえて大切にします。

保育目標

～良いはたらきをする心を育てる～

- ありがとうを感じ合えるすなおな心
- 愉快的笑顔で笑い合えるあかるい心
 - お話が好きなひろい心
 - 虫や花をいたわるやさしい心
 - 自然に親しむうつくしい心
- おもいきり遊べるすこやかな心
 - 決まりをまもる正しい心

～自らが持つ生きる力を育む～

六感を刺激し、自然体験活動や様々なものづくり体験など、想像力、創造性、発見、自己実現、人とのふれあいを通して豊かな人間性と個性、協調性を育む

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って園自ら、保育士自ら客観的に自己評価を行い、平成 27 年度に施工された子ども・子育て支援新システムへの対応を検討し、義務教育及びその後の教育の基礎が培われるよう、保育の質を高めるために常に向上を目指します。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
① 保育方針や保育目標の明文化と周知	入園説明会にて資料を配布し、周知 在園の保護者には、個人面談を通じて保育方針及び保育目標を周知。5歳児に関しては別途就学へ向けた茶話会を実施
② 子ども・子育て支援新制度への対応	園が所属している団体の研修会に参加をし、職員間の研修内容の情報を共有しながら理解を深めていく。制度は目まぐるしく変わっていく中で、時間もない中共有する時間を確保することが難しい
③ 職員の資質、保育の質の向上	外部で開催される研修会や園内研修などの学びを通して職員の資質向上を図っている。実地研修やオンライン研修、キャリアアップ研修などを活用し参加。
④ 幼保小の連携	近隣小学校との連絡会議や交流会への参加。 今年度は合同研修会も実施し、小学校との連携をより強化した。
⑤ 防災・防犯意識の向上	毎月の避難消火訓練。また防犯訓練や通報訓練を行い、緊急時の対応に対処している。消防立ち会い訓練も行い、防災・防犯意識の向上を図った

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の職員会議のあり方を見直し、全体会議をやめ、ミニマムな形の会議を取り入れた。午睡時間を活用しながら、話すべき目的を事前提示し、会議時間の適正化を図った。その中で保育内容の確認・見直し等を行い、取り組むべき課題や、子ども達の 処遇、園の方針を職員皆で共有することに務めた。 ・職員一人一人が自分自身を自己評価し、来年度に向けての課題、それに対してどうアプローチしていくのかを共有していきながら、それぞれの保育の質向上に向けて前進できていると感じている。 ・園外研修にも積極的に参加をし、社会情勢や保育情勢の動きも理解しつつ、園の方針と照らし合わせて何を大切にしていけるかを考えられるようになり、職員の質の向上が図られた。今後も専門性を高めてけるような研修内容、会議内容にしていきたい。 ・保育内容も随時見直しを図り、子どもの「夢」から始まる保育を軸にし、大人の意図が優先される保育ではなく、子どもの意図が優先される保育への転換を職員だけではなく、個人面談などを通じて保護者にも説明をしながら保育を行った。 ・課題としては、ここ数年の保育制度が目まぐるしく変化をし、保育士に求められる事務的な部分がより大きくなってきている。現在も皆で工夫しながら、時間を作っているが、今後この事務負担や保育に求められている負担を軽減していかなければ保育士が潰れてしまうし、未来ある保育士のなり手がいなくなってしまう危機感も意見としてあった。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育計画の編成	平成 30 年度より保育所保育指針の施行が行われた。煩雑となっていた保育計画を再編成し、短期的と長期的な計画に編成し、職員のための保育計画となるよう工夫した。しかしながら、保育計画と保育実践の評価がまだ上手くできておらずそこは課題として残っている
新制度への理解促進	保育所保育指針の改定や保育政策などにより園の方針や目標が変化していく中で、保護者に対しても園の考えや、思いをきちんと理解した上で共に子どもたちの保育を見据えていけるよう伝えていきたい。 職員自身も時代の変化とともに変わりつつある保育の変化にアジャストが難しい職員もいるので、園内研修や園外研修を通じて、少しでも保育制度やこれからの保育のあり方を学べる機会を用意していきたい
職員のより一層の資質向上	前述での通り、社会から求められる保育は変化を続けている。そこで働く職員の資質向上は絶対的に必要であり、キャリアパス研修への参加、外部研修・園内研修を通して必要な専門性の向上が図られる研修を計画していく。また、これからの時代に必要になっていくのが「リスキリング」だと感じ、職員が保育以外のキャリアも考えられるような組織風土が大切になってくる

6. 評価項目の自己評価

評価項目	評 価
3—①	令和 5 年度は新入園児に対しては入園説明会、入所前面談を通じて保育方針や保育内容を周知。 毎月の園だより、園からのお手紙を通して周知徹底を図った。 懇談会や行事などを通して、理念や方針をどう保育に反映しているのか、何が大切なのかを伝え、子どもたちの様子から保育に反映されているかを日々のコミュニケーションや保育日誌などで伝えていった 保護者が受けてきた保育や教育と今の子どもたちに大切な保育、教育が大きく変化しているため、保育方針として伝えづらい部分がある。
3—②	外部研修はオンラインと対面研修がバランスよくあることが増え、参加するハードルが低くなったこともあり、様々な職員が参加することが増え、保育の質向上に努めていった。昨年度同様、保育実践をプレゼンする場を作ることが叶わず、この部分は課題として引き継いでいきたい。
3—③	3—②での通り、オンラインでの外部研修会への参加、園内研修の実施などで内容の充実が図れた。 研修に参加できない、できなかった職員に対しては、外部研修に対して共有会議、園内研修に関しては、研修内容を撮影し動画配信とすることで全体の保育の質向上に務めた。ただ実際に参加しているわけではないので、伝

	わり切らない部分も多々ある
3—④	今年度は、交流会を実施することができ、小学校1年生が企画した遊びやレクレーションを楽しむことができ、卒園児が新しい環境へ見通しを持てた。今年度は合同研修会も行い、保育園での実践と小学校の実践をお互いに学び合うことができた。
3—⑤	いつ起こるか分からない災害等に対し、園児の最優先を考えた避難計画の作成、訓練の実施、避難用具や非常食の定期的な見直しをすることにより、安心して保育園に通えるような努力をしていることが伺える。防犯に対しては、防犯カメラの設置、総合警備保障とのセキュリティの委託など積極的に防災、防犯に取り組んでいる。引き渡し訓練や消防立会訓練も実施できた。

7. あげぼの会関係者の評価

理事・評議員の皆様にも令和5年度のあげぼの会の報告をした。理事長より「昨年度に引き続き、【保育を再構築する】をテーマに今年も取り組んだ。その中で、地域交流プログラムを実施し、保育実践の中でもプロジェクト保育など新たな保育の形を少しずつ芽が出てきたように感じている。また、【育成】に関しては、今年度も課題が多く、満足いくような結果は得られなかった。そのため、来年度よりマネジメントや人材開発などを行っている団体と共に、保育者に皆経営者思想を植え付けていくことを協力してやっていこうと思っています。来年度から新たなチャレンジも始まっていくので、あげぼの会の変化を恐れないマインドを持ってまた来年度もより良い保育を目指していきたい」と報告した。理事・評議員の方々からは、人材確保、人材育成はどの保育園でも課題として感じているところであり、難しさも大変わかる。その中でも新しい取り組みや、チャレンジに恐れず向かっていくところはあげぼのらしいし、現状維持せず前を向いて取り組んで欲しいと評価いただいた。

職員の処遇に対しては、働き方改革を更に進めていき、職員会議の参加者を副主任以上にすることで話し合いの質をあげ、時間を短くしながら質を上げることで、その分現場の職員へ丁寧なコミュニケーションへとつながり、各クラスの話し合いの時間も増やすことにつながった。また、働き方改革とはシンプルに働く時間を短くすることであるので、行事・製作のあり方も見直し、行事については内容の見直しをすることで残業を減らし、制作についても「持ち帰る製作づくり」をやめ、子どもたちの興味・関心に合わせた製作をすることで子どもも職員も心の安心感を持って保育に取り組むことができている。しかし、昨今の保育園に求められていることがあまりにも負担が大きくなっている。(安全計画の策定や、BCP計画など)もちろん園運営にとって必要なことだと思うが、マニュアル作成のための情報収集、立地状況、構成など、マニュアル一つを作るにも膨大な時間を要し、更には職員への周知も入ってくるとその時間を保育しながら確保するのは大変厳しいものがある。もう少し、マニュアル作成の雛形や、モデルなどを示してほしいと感じている。

日々の保育を大切にできるような環境を整備していることに評価をいただき、保育園は子ども、保護者のためだけに存在しているのではなく、働く一人一人の自己実現のためにもある場所であり、職員がワクワクしながら子どもたちと過ごせる場所になるよう引き続き努力してほしいとの評価をいただいた。

8. 財務状況

社会福祉法人の財務諸表等電子開示システム 参照